

2010 年 1 月 1 日発行
 発行人：森本 泰暢
 発行所：〒650-0024 神戸市中央区
 海岸通 8 神港ビルディング 509
 TEL：078-393-0050
 FAX：078-393-0051
 E-Mail：kobekeio@dream.ocn.ne.jp
 URL：<http://www.kobekeio.org/>
 編集：松尾 茂樹・齋藤 洋邦

謹賀新年

神戸慶應倶楽部会長
 佐井 裕正 (昭 49 商)



『新年挨拶』

新年明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、ご健勝にて新年をお迎えになられました事、心よりお慶び申し上げます。さて、昨年はずいぶん“Change”の年となりました。1 月にはアメリカ

合衆国でオバマ民主党政権が発足し、わが国におきましても 8 月の衆議院総選挙で、鳩山民主党政権ができました。一方慶應義塾では新しく、商学部長であられました清家篤先生が塾長に就任されました。私自身、商学部卒という事もあって、少し誇らしげな所もございますが、清家新塾長におかれましては、世界金融危機の影響を受けた事による財政難・あるいは少子化といった社会現象など非常に難しい時期の就任となりました。私どもは、この困難な時を乗り越え新しい塾の未来に挑戦される清家新塾長に、心からのエールを送るものであります。

一方、神戸慶應倶楽部は昨年 8 月、設立 80 周年のお祝いの会の準備をしていた折、実は 86 周年であった事が発覚しました。同時に、古い資料がいくつも発見され、設立当時の活動を詳しく知る事ができました。

この伝統をふまえて来年平成 23 年 10 月 23 日神戸ポートピアホテルに於いて、第 35 回関西合同三田会が当倶楽部をホストに開催される事になりました。

本年は、その準備をする年となります。

当倶楽部の会員の皆様方におかれましては本会の成功に向けて一致団結し、益々のご尽力をお願い申し上げます。最後になりましたがこの一年が皆様方ひとりひとりにとって実り多い年となりますことを祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

～クリスマス家族例会レポート～

郷田 誠紀 (平 6 商)



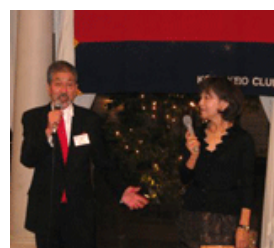
12 月 5 日土曜日、午後 6 時半から年内行事の締めくくりとなるクリスマス例会が、ポートピアホテル・レヴァンテの間で開かれました(参加者 会員 29 名 家族 14 名)。

佐井会長による神戸慶應倶楽部の今年の活動報告を含めたご挨拶と乾杯の音頭で、パーティーの幕開けとなりました。

神戸ポートピアホテルの美味しい料理とお酒を楽しんでいる中、ジャズライブが始まりました(出演：中谷泰子&森本優子)。今回は、ジャズ、ラテン、クリスマスソングとバラエティに富んだ内容で、『You'd be so nice to come home to(Cole Porter)』、『Last Christmas(Wham)』、『Samba de uma Note so(Jobin)』というような演目で進んでいきました。

今回、ジャズライブの司会を私、郷田が務めさせていただいたのですが、リハーサルに立ち会うため早めに現場に入ったところ、2 曲も私のリクエスト(候補の中から選ぶ形でしたが)を演目に入れていただくことになったため、ドキドキしながら聴いておりました。

幸いなことに、場内のノリもよく、アンコール『On the sunny side of the street(Jimmy Mchugh)』でライブは盛り上がりとともに幕を閉じました。



続いて、浦上ご夫妻の司会によるオークションが始まり、いつも通りのハイテンションかつ絶妙な掛け合いで、お酒・お菓子・ネクタイ・宝くじ・絵画といった商品がどんどん競落とさ

れて行きました。

今回、新しい試み(?)として、福袋がオークションに出品されました。小さめの商品を複数詰めた福袋なのですが、先に手を挙げ権利を買った人から、福袋を覗いて、好きな袋を持って帰るという形式で行われました。福袋の意味が余りない気もしなくはないですが、参加者には好評で、全部の福袋が競り落とされ、オークションも盛況のうちに終了しました。

最後は、阪本副会長のご挨拶のあと、全員で若き血を熱唱して、お開きとなりました。



オークションの売上金額は 185,000 円となりました。また、当日用意されましたビール、ウーロン茶はアサヒビール様より協賛頂きました。ご協力、誠にありがとうございました。



～11月例会レポート～

後藤 大悟 (平 13 経)

11月11日午後6時30分より、神港ビルディング1階会議室にて11月例会が開催されました。

(出席者 17名)

森本幹事長からの連絡事項、佐井会長からのご挨拶の後、アクセンチュア株式会社 最高顧問の村上徹様より、「コンサルティング会社の抱える幾つかのジレンマ」を題としてご講演いただきました。



以下全てを網羅でききれませんが、内容を報告させていただきます。

はじめに、アクセンチュアという会社のご説明を頂きました。全世界で従業員18万人・売上は2兆円などスケールの大きさはなかなか想像もできないような規模でした。

しかし、これほど大規模の会社であるにも関わらず、全世界で1つのシステム(人事評価等)で動いている事やオフショア人材の活用(社員数でもインド人が最多数)など非常に効率的な仕組みで運用されている事にまず驚きを覚えました。

また、アクセンチュアが現在の規模になった理由についてもご説明があり、他のコンサルティング会社が会計・戦略・システム設計等各社各々の基幹事業中心で行うブティック型であるのに対して、顧客の要望に応じてコンサルティングからシステム開発・さらにその先のアウトソーシングビジネスまでも取り込んでおこなう、スケール追求型の展開をおこなっているとの事でした。

上記の通りコンサルティング会社として当然なのかもしれませんが、会社組織のあり方としての効率性・合理性の追求という意味で非常に洗練された組織という印象を受けました。さらに驚いたのが、その組織としての自浄作用と未来を見据えて変化(改善)を続けるための仕組みづくりでした。これは、最後の質問時間に頂けた話ですが、社内で数年おきに世界各地から選ばれた次世代のリーダー候補の人が50-60人集まって(現役のマネジメント層は参加せず)、自社の今後のビジネス展開について検討する仕組みがある事でした。まさに、最高のコンサルタントが自社組織をコンサルタントし、方向性を出している事は新鮮さすら感じました。またその上、各法人の代表就任時に後継者を3名選んでおくサクセッションプランという制度など、一歩も二歩も先を見据えた自浄作用・制度が機能している組織である事が認識できました。

次に、現在の日本企業への分析についてもお話を頂きました。そこでははじめに、全業種で当てはまる話としてスマイルカーブの話がされました。これは、統計的に中規模企業の利益率の低く・逆

に小規模・大規模会社は利益率が高くなっている事を図示したものです。そのなかで、現在の日本企業は、全般的に規模が中途半端で利益率が低いとの言及がありました。今ニュースになっている国内の飲料品メーカーの統合の話などは、グローバル規模での大規模化の動きではとの事で分かりやすく理解する事ができました。

もう一点言及されていたのは、昨年のリーマンショック以降の新興国マーケットの急拡大に日本企業が乗り切れていないことでした。これは日本企業の特徴として品質追及で高品質の商品を作る事を追求することに長けているため、新興国マーケットに対して安価な商品(品質等はそこそこでも)の提供ができていない事でした。逆に、インド



のタタの5万円の車や韓国のサムソン等も新興国向けに安価な携帯電話等の商品を提供しているなど、彼らは

新興国のマーケットに合わせた商品の供給ができているとの事でした。この事に関しても、日本では報道等においても安全性が・・・などの議論が多く出ており、国を挙げて見当違いな議論をしているのではとの思いを持ちました。

最後に、今回のお話を通して、アクセンチュアという会社の社会・世相を冷静に見る目の鋭さとそれを受け止め実行する力を感じる事ができました。今回の学びを通して、話を聞いて理解するだけでなく、一部からでも自分自身にも置き換え、実行できればと心を新たにさせて頂いた素晴らしいお話を頂きました。

会員だより

《四国八十八ヶ寺+別格二十ヶ寺
ランニングお遍路近況報告》

野田 敬二 (昭58 経)

平成19年12月24日に開始したランニングお遍路(順打ち八十八ヶ寺1,200キロ、逆打ち八十八ヶ寺プラス別格20ヶ寺1,400キロ、あわせて約2,600キロ)は、まず平成20年9月12日(延べランニング日数21日)で、順打ちを結願しました。

その翌月から逆打ちを開始する際、順打ちと全く同じ道をランニングしても飽きが出るかもしれないと思い、順打ちの際、参拝しなかった四国別格20ヶ寺も参拝することにしました。これが難行苦行の始まり。①順打ちとは異なり逆打ちのため

の標識が著しく少ない。別格霊場については特に標識が少ない。②別格20ヶ寺のお遍路道が狭くて険しい所が多い。猪や猿などと頻りに遭遇する。③1ヶ寺2枚の写経に多くの時間を要すること等、疲労困憊の度合いもピークに達しました。

気分転換も必要と考え、本年9月9日、松山三田会の定例会(ホテルサンルート松山)と10月10日、四国連合三田会(高知パレスホテル)に参加させていただきました。その際、四国在住の多くの先輩方から大きな激励を拝受し、筋肉疲労がどこかに消滅してしまった気分になりました。四国でお世話になった方々には、平成21年1月、神戸慶應倶楽部での“お遍路さん”講演会のレジュメを後日郵送すると、大変感謝されました。

虫食い状態だった逆打ちお遍路ルートも讃岐・伊予・土佐の国を終え、阿波の国の遍路ころがしと呼ばれる、①焼山 ②鶴林 ③太龍も無事参拝し、残りあと19ヶ寺・100キロとなりました(平成21年11月9日現在)。あと30キロぐらいの旧蜂須賀家跡の徳島県庁には“慶應義塾跡の碑がある”と徳島慶應倶楽部の吉見会長から聞きました。地元では“慶應義塾の碑に祈願すれば必ず慶應義塾に合格することができる”という言い伝えがあるそうです。順打ちの際には、慶應義塾の碑を素通りしたので、逆打ちでは“参拝”する予定です。

以上、近況報告まで。

平成21年11月22日

野田 敬二

同好会だより

KKJC

《KKJCジャズ忘年会》

藤田 也寸志 (昭50 商)

KKJCのジャズ忘年会が12月12日(土)に行われました。

いつもは三宮なのですが、今年は趣向を変えて堂島の福澤諭吉誕生の地である、慶應中ノ島キャンパスの下のJAZZレストラン「RED&BLUE」に総勢55名集合しました。とてもお洒落なセンスの良い店でした。

最初に近藤世話人の挨拶に続き、本年9月に惜しくも亡くなられた盟友堀友子さんの追悼を込めて、全員で黙祷を捧げました。

その後、堀さんのご主人がご挨拶の中で、「趣味は飛行機のプラモデルを作ることです」と、大きな立派な飛行機の模型を見せていただきました。



これは、戦争末期に川西航空機で製

造された高性能な戦闘機だそうで、もっと早く開発できていればと仰いました。

すると、鍋島先輩が「海軍に従軍している時に、最後に乗った飛行機がまさにこれです」と懐かしげに言われたので、堀さんが記念にということで鍋島さんにプレゼントされました。鍋島さんは若くして南方に散って行った戦友達を思い出されたのか、目頭を押えながら受け取られていました。

さて、堀切先輩の乾杯の後、いよいよJAZZタイムに突入です。

プレイヤーは、鍋島直昶さん (Vib)、小川理子さん (Pf&V0)、澤崎至さん (D)、江邊浩二さん (B) この方は塾出身者ではないのですが応援に駆けつけてくれました。

大場知之さん (昭46政、JAZZボーカリスト) の絶妙な司会と素晴らしい演奏を6曲聴いたところで第一部が終了しました。

第二部は皆さんが飛び入りで参加されました。

垣屋高文さん、宮本美代子さん (宮本節夫さんの奥様)、澤崎さんが唄われ、永山克彦さんがプロ顔負けのドラムの腕を披露してくれて、場の盛り上がりも最高潮になって、ラストは堀友子さんの好きだった「On the Sunny Side Of the Street」を全員で歌って散会しました。

“場所よし”、“人よし”、“演奏よし”、ときたら「気分よし」になるのは当然で、充実感たっぷりの一日でした。



KKJC世話人 近藤 正
090-8446-9382
(ludy007@kcc.zaq.ne.jp)



イーゼル会

《今月の絵》



植橋 真美 (昭47法)

イーゼル会を紹介しますと、当倶楽部ルームにおいて原則毎月第2、第4木曜日の18時～21時に水彩画を描いており、時には写生会も行っています。

イーゼル会で初めて絵を習う会員も交え梅地画伯のご指導の下、毎回和気藹々と楽しい時間を過ごしております。

ご興味のある方は神戸慶應倶楽部事務局にご連絡いたします。

前田剛資

読書会

《神戸慶應倶楽部読書会》

第7回目の読書会が11月17日(火)に行われました。年内に素読を終わってしまおうということで一気に第17編(人望論)まで進みました。お互いに慶應義塾を卒業したという縁をいつまでも大事にして、交流を保ち、福澤先生の御著書をもとに勉強を続けていることこそ学問のすすめの真髄かもしれません。7回目の参加者は、堀切、浅沼、藤井、古淵、六拜、左川、福野、阪本、宍戸、野田、野田夫人にこの日から新たに参加の鈴木博海を加えて12名でした。1年掛けて第1編から17編まで素読をしてきましたが、次回からはもう一度第1編からに戻り、内容の理解をすすめ、演舌も楽しんでいきたいと思っております。

次回は平成21年1月20日(水)18:30から、阪本豊起副会長の事務所(建隆ビルⅡ3階)で、「学問のすすめ」第1編(怨望の人間に害あるを論ず)から始めます。読書会の後は、時事放談を楽しみながらの飲み会になります。(飲み会の割り勘は3,000円程度です)

「学問のすすめ」(岩波文庫)を持って気軽におい

てください。但し、お酒とつまみの準備がありますので、前回の出席者以外の方は阪本まで事前にご連絡頂ければ幸いです。

読書会世話役 阪本豊起

会員の輪

《合気道と日常性》

堀 雅博 (昭 54 経)

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

合気道の稽古を始めて、はや5年半になります。初段は許されたものの、不要な力が入ったり身体の軸がぶれたり、課題は山積みであります。まだまだ稽古が足りません。

合気道には、試合がありません。相手を倒すこと、相手に勝つことが目的ではなく、自分の技を磨き、心身を鍛錬することを目的としています。勝負にこだわる武道では、勝てなくなって来たら続けるのがしんどくなるかもしれません。それゆえに、合気道は、男女を問わず年齢を問わずに、稽古を続けることができます。私が5年半も続けて来られたのも、そのお陰かもしれません。

稽古では、二人で組んで、技をかける「取り」と技を受ける「受け」とを交互に繰り返します。自分よりも高段位の人と組むこともあれば、初心者の人と組むこともあり、また、頑丈な大学生と組むこともあり、まだまだ華奢な中学生と組むこともあります。相手の力や動きに応じた稽古をしないと、怪我をする、怪我をさせる危険があります。相手に応じて動く、とは、相手の言いなりになって動くのではなく、相手に自分の気持ちを合わせて相手に連れて動いていくことです。そのために、相手の「動き」、相手の「気」を「感じる」稽古をし、と師範は良く仰っています。今その一瞬に集中しないと、なかなか相手を感じることができないなと感じています。禅という「三昧」ということと通じているのかな、などと思います。

こうして続けている合気道は、日常の中で活かせるものだ、と最近感じ始めました。私は、一昨年10月から、リクルートマネジメントソリューションズという会社が行う企業向けの研修のトレーナーをしています。マネジメントやリーダーシップをテーマに考える研修が中心です。研修を受講する人たちとのやり取りを通して、彼らが今なにを考え、どんな気持ちでいるのか、どんな思いで発言をしたのかを感じ、引き出して、気づきを起こしていく、そんな仕事です。まさに合気道で相手と組むときと同じように、相手の「気」を感じながら進行して行く、そこに共通点を見出して

ます。研修の場では、進行・運営も気になり、ついつい時間を気にしてしまうのですが、受講者と向き合っている間は受講者に気を集中させ、受講者を感じるトレーナーでありたいと思います。

合気道に限らず、武道では臍下丹田に気を集中させる、ということがよく言われると思いますが、このことは、声を出すときにも役立ちます。研修では話す声が受講する人にきちんと伝わらないと困りますが、呼吸を臍下丹田に落として身体で響かせないと、受講する人に届く、力のある声になりません。臍下丹田を意識する、ということでも、合気道の稽古は私の日常に活きているといえます。

相手を感じる、今に集中しきること、呼吸をお腹に落として「気」を臍下丹田に集中させること、どれをとっても未熟ですが、日常で生きる武道として、これからも稽古を続けていきたいと思っています。もし、合気道に少し興味が湧いた方がいらっしゃいましたら、ぜひご一報を！見学や体験していただく機会を作りたいと思います。



《新年を迎えるにあたって》

齋藤 洋邦 (平 12 商)

新年明けましておめでとうございます。

神戸を本拠地として、早 2 年が過ぎました。私は関東出身ですが、神戸は前職時代に 4 年間過ごした場所で、神戸に来ることはどちらかという、戻るという感覚でした。しかしながら、まったく異なる立場で再開することとなった神戸生活。自分の未熟さを実感する日々を送っております。

神戸慶應倶楽部に参加させていただいたことは、私にとって大きな前進となりました。前職時代から会の存在は知ってはいたのですが、自分は所詮転勤族と思い、会に参加させていただいても中途半端になると勝手に考え、加入を断念しておりました。私がまだ大学生だったころ、自宅から 2 時間近くかけて通っていたということもあり、キャンパスは私にとって、通過点のひとつとしか認識できておりませんでした。慶早戦を見に行ったことは一度もなく、慶應が試合に勝ち進むことは、講義が休講になる以外の意味は何もありませんでした。若き血も、恥ずかしながら歌えるようになったのはここ最近のことです。

そんな私の浅はかな考えが誤りだと気づくのにそう時間はかかりませんでした。緊張しながら参加させていただいた最初の例会。私よりも大先輩の方々皆さんに暖かく迎えていただき、堅苦しい雰囲気も一切なく、例会だけで終わらない深いお付き合い。同じ大学の出身であるというだけで、

気さくに声をかけていただける。なんと素晴らしい大学に通っていたのだろうと、日を追う毎に感じております。今こうして BRB の編集のお手伝いをさせていただいておりますが、私が生まれた頃や、それ以前に大学をご卒業された大先輩の貴重なご経験や、今も衰えぬ意欲に自分ももっと頑張らねばと触発されております。先輩の皆様が築かれた神戸慶應倶楽部の自由闊達な雰囲気。そして皆さんに教えていただいた、どんな後輩にも注いでいただける深い愛情。倶楽部のそして、後に続く後輩のために皆さんが一生懸命会を盛り上げようとされる熱意。勿論これだけではありませんが、その思い一つ一つが私の中で芽生えております。

今年、神戸慶應倶楽部は 87 周年を迎えます。倶楽部が 100 歳になる頃、私はやっと 47 歳。倶楽部の半生にも達しませんが、この神戸慶應倶楽部が世界中で一番活気があり、温かみのある慶應倶楽部として続いていけるよう、その力の一部にでもなれればと願うばかりです。

神戸慶應倶楽部の皆様にとって、今年が輝かしい一年となりますように。

～事務局よりお願い～

◆例会等にご出席の会員様はお食事等の準備の都合がありますので、必ず事前に事務局までお申し込みをお願いします。なお、当日のキャンセルにつきましては会費全額を頂きますのでご了承ください。

◆住所・電話番号・メールアドレスの変更がある場合は、必ず事務局にお知らせください。

～今後の行事予定～

1月	10日	誕生祝賀会	シェトン大阪
1月	20日	読書会	健隆ビル II 3F
1月	29日	1月例会	神港ビル 1F A
2月		2月は例会はございません	
3月	17日	3月例会	東天閣

～1月例会のご案内～

日時：2010年1月29日(金) 18:00より

場所：神港ビルヂング 1階 A会議室

会費：3,000円

講演：「福澤諭吉と関西」

講演者：慶應義塾福澤研究センター

専任講師 都倉 武之氏

● 2月は例会はありません。

～3月例会のご案内～

日時：2009年3月17日(水) 18:30頃より

場所：東天閣

会費：9,000円(会員) 10,000(ビジター)

中神安邦会員にお世話を頂き、恒例の東天閣本店で開催いたします。

～第175回福澤諭吉先生

誕生記念祝賀会のご案内～

日時：2010年1月10日(日) 受付 18:00～

場所：シェトン都大阪ホテル 4階「浪速の間」

講演者：清家篤塾長

会費：関西合同三田会会員 9,000円

平成12年以降卒業の会員 6,000円

ビジターは各1,000円プラス

お申し込みは、大阪慶應倶楽部に直接お願いいたします (06-6202-0516)

詳細はその都度お知らせいたしますので、毎月
のメールマガジンでご確認ください。

普段、会の行事に出席できない方、遠隔地の方も
誌面に登場して参加してください。皆さんの投稿を
お待ちしております。

BRB編集部 kobekeio@dream.ocn.ne.jp

編集後記
○新年あけましておめでとうござい
ます。
昨年、政権交代しても暗い話題が多
く、厳しい世情で身も心も冷々でし
たが、今年は虎年！慶應倶楽部の皆
様とホットなハートで、ホットする
気持ちで前向きに突き進んでいき
たいものです。(M)
○堀先輩から編集作業を引継いでか
ら早一年が経ちました。変わり映え
のない紙面で大変恐縮です。みなさ
まから頂く原稿はどれも興味深いも
のばかり。本年も寄せて頂く様々な
お話を楽しみにしております。(洋)